

ID: _____ 患者氏名: _____ 様

	入院当日	入院翌日～化学療法前日	化学療法施行日	化学療法開始～退院(通常10日間程度)	退院日
	月 日	月 日～ 月 日	月 日～ 月 日	月 日～ 月 日	月 日
目標	治療の経過が分かる	治療の経過が分かる	予定どおりに治療が終了する	症状出現時には適切な対処が受けられる。	退院時指導の内容が分かる
説明・指導	入院生活について説明します。 薬剤師より化学療法の薬剤について説明します。 予測される副作用および予防法・出現時の対処方法について説明があります。	点滴中針の入っているところが痛くなったり、重苦しくなったら、すぐに教えてください。	点滴中、針の入っているところが痛くなったり、腫れたり、重苦しくなったら、すぐに教えてください。	体調の変化時はお知らせください。	退院指導（生活指導や次回外来再診日の連絡）を行います。 (1回目の方は「がんの薬物療法を受けられる方へ」のパンフレットを使用し指導を行います。2回目以降の方は、1回目のパンフレット「がんの薬物療法を受けられる方へ」を使用し振り返りを行います) 抵抗力が弱っているため退院後も感染予防(手洗い・うがい)が必要です。
治療処置点滴		点滴の針を入れ、午後から点滴を行います。 	抗癌剤は、 エトポシド 、 シスプラチン という2種類の薬を5日間使用します。 スケジュール ① 30分 グラニセトロンとデキサート(ステロイド) という吐き気止めの点滴をします。 ② 4時間 エトポシド という抗癌剤を点滴します。 ③ 3時間 シスプラチン という抗癌剤を点滴します。 尿量が少ない場合は、利尿剤の投与を行います。吐き気が強い場合は、すぐに教えてください。症状により点滴や注射をして症状の改善を図ります。	《抗癌剤の主な副作用について》 発症時期による症状と対処方法について、以下のものがあげられます。 【投与直後から数時間】 発疹・発赤・顔のほてり・かゆみなどのアレルギー症状 → 抗アレルギー剤投与 【投与から1～2日後】 はき気・嘔吐・食欲不振などの消化器症状 → 吐き気止めの注射、内服薬の投与 体重増加・むくみ → 利尿剤の投与 【投与から数日間経過してから】 白血球減少 → G-CSF製剤(白血球を増やす薬)を注射 貧血 → 輸血(必要時) 血小板減少 → 血小板輸血(必要時) 【投与から1～2週間経過してから】 脱毛 → かつらやバンダナなどを使用 味覚の変化 → 味付けの工夫、うがいや亜鉛製剤の内服	
内服	現在飲んでいる内服薬の確認をします。内服薬は基本的に継続内服とします。				
検査	血液検査は外来で済んでいますが、必要に応じて追加検査がある場合があります。 			採血をして、骨髄抑制(白血球減少、貧血、血小板減少)の有無を確認します。 白血球減少が認められた場合は、G-CSF製剤(白血球を増加させる薬)を注射します。	採血をして、骨髄抑制(白血球減少、貧血、血小板減少)の有無を確認します。骨髄抑制が許容範囲内であれば退院となります。 白血球減少が認められた場合は、G-CSF製剤(白血球を増加させる薬)を注射し、退院が遅延となることがあります。
食事	基礎疾患(糖尿病・高血圧など)に応じて、治療食をお出しすることもあります。 		吐き気がでることがあります。食事内容を変更したいときはお申し出ください。 		
生活・行動	病棟内を自由に歩いてかまいません。		特に行動制限はありません。		退院手続きが完了するまで、病室でおまちください。
清潔	シャワー浴ができます。		点滴中以外は、シャワー浴ができます。		退院後は特に制限はありませんが、抵抗力が弱っていますので、風邪予防が必要です。
その他	入院後に熱が出た場合は、化学療法を延期していったん退院していただくこともあります。入院に付き添いは必要ありません。		抗癌剤点滴開始初期(特に10分以内)に発疹や顔が赤くなってほてるなどのアレルギー症状が現れることがあります。ほとんどは一時的なものでおさまりますが、症状が出現した場合は申し出て下さい。 		◎1コースを21日間として、以下のスケジュールで合計__コース行う予定です。 1コース投与スケジュール 1日目 2日 3日 4日目 5日目 エトポシド ● ● ● ● ● シスプラチン ● ● ● ● ●

注) 予定は現時点で考えられるものであり、今後検査等を進めていくにしたがって変わることがあります。